

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公開番号】特開2009-30035(P2009-30035A)

【公開日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-006

【出願番号】特願2008-167214(P2008-167214)

【国際特許分類】

C 11 D 3/395 (2006.01)

C 11 D 17/04 (2006.01)

C 11 D 1/62 (2006.01)

C 11 D 3/34 (2006.01)

C 11 D 1/04 (2006.01)

C 11 D 3/04 (2006.01)

【F I】

C 11 D 3/395

C 11 D 17/04

C 11 D 1/62

C 11 D 3/34

C 11 D 1/04

C 11 D 3/04

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 次亜塩素酸アルカリ金属塩、(b)陽イオン界面活性剤、(c)下記一般式(1)で表される化合物を含有し、(b)成分と(c)成分とのモル比(c)/(b)〔但し、(c)成分において、X¹とX²との両方が-SO₃M又は-CH₂COOMである場合、当該化合物のモル数に2を乗じる〕が1以下である漂白剤組成物を、噴霧手段を備えた容器に充填してなるスプレー式漂白剤。

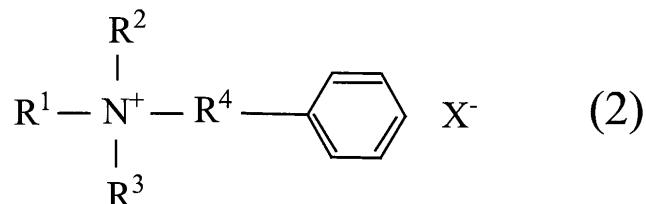
X¹-O(AO)_n-X² (1)

〔式中、AOは炭素数2~4のアルキレンオキシ基、nはアルキレンオキシ基の平均付加モル数であり5~150の数を示す。X¹、X²は、それぞれ水素原子、-SO₃M、-CH₂COOM(Mはアルカリ金属原子)、炭素数1~6のアルキル基を示し、X¹、X²が同時に水素原子、アルキル基になることはない。〕

【請求項2】

前記漂白剤組成物における(b)成分が、下記一般式(2)で表される陽イオン界面活性剤である、請求項1記載のスプレー式漂白剤。

【化1】



(式中、R¹は炭素数6～12のアルキル基、R²及びR³はそれぞれ独立して炭素数1～3のアルキル基、R⁴は炭素数1～3のアルキレン、X⁻は対イオンを示す。)

【請求項3】

前記漂白剤組成物が、更に、(d)下記一般式(3)で表される第3級アミンオキサイドを含有する、請求項1又は2記載のスプレー式漂白剤。



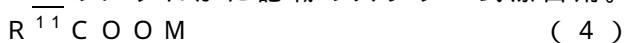
(式中、R⁵は炭素数8～20の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を示し、R⁶、R⁷はそれぞれ、炭素数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を示す。)

【請求項4】

前記漂白剤組成物が、更に、(e)ベンゼン環を有するハイドロトロープ剤を含有する請求項1～3のいずれかに記載のスプレー式漂白剤。

【請求項5】

前記漂白剤組成物が、更に、(f)下記一般式(4)で表される化合物を含有する、請求項1～4のいずれかに記載のスプレー式漂白剤。



(式中、R¹¹は炭素数6～22の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を示す。Mは水素原子、アルカリ金属原子又はアルカリ土類金属原子を示す。)

【請求項6】

前記漂白剤組成物が、更に、(g)アルカリ金属の水酸化物を含有する、請求項1～5のいずれかに記載のスプレー式漂白剤。